

とうきょう すくわくプログラム活動報告書/4 歳児

所在	東京都中央区晴海 5-3-2 B 棟 1F
園名	ポピンズナーサリースクール HARUMI FLAG PORT VILLAGE

1. 活動のテーマ

<テーマ>

自分の世界を表現して楽しもう～一人一人違う世界～

<テーマの設定理由>

お子様たちはそれぞれ好きな色や食べ物、大きくなったらなりたいものなど、一人一人が違うことを知った。きっかけは「うれしい言葉と悲しい言葉(ふわふわことばとチクチクことば)」について考えたことから始まります。

「どんな言葉がうれしい?」と話をしてみると、「みんなちがうね。」

そのことで初めて理解したお友だちの思い、一番うれしかったこと、感じたことも沢山ありました。

みんな違ってみんな良いんだよ! そう感じたお子様たちは、自分の世界の他に、お友だちにも違う世界があることを知って行き、その後自分の世界を表現して皆にも伝えたいという想いが芽生え始めた為。

2. 活動スケジュール

【7月】 自己紹介

【8月】 ミニミニコンサート衣装作り

【9月】 ミニミニコンサート衣装作り

【10月】 言葉について『ふわふわことばとチクチクことば』

【11月】 ファッションショー

【12月】 ファッションショー・オペレッタの衣装作り

【1月】 ファッションショー・オペレッタの衣装作り

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

衣装製作用のカラーポリ袋、カラーテープ

廃材(ボックスティッシュの空き箱やお菓子や食品の空き箱は家庭から好きなものを持参)

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

自分の好きな世界を考え、描き、彩り、衣装として表現を行い、まずは大好きなコンサートを作ってみようと衣装から歌の項目まで自分たちで考えて見せ合い、1年を通して自分たちの表現したいものを考え、描き、実際に作り出す世界『ファッションショー』として発表する

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

「自分たちで衣装を作って歌を披露してみたら？」との声掛けに「いいの？できるの？やってみよう！」と2か月かけて自分たちの世界を作り上げ、お互いの世界を見せ合った。子どもたちのやりたいが実際に実現する事に、子どもたちは初めての経験として意欲的に積極的に取り組み始めた。また、お友だちの世界を見て、「これいいね」「私にも教えて」と教え合ったり伝え合う姿も沢山見られるようになり、本番に向けて緊張する場面が多い中、「大丈夫、できるよ」「いっしょにいるからね」「たのしいことをかんがえるといいんだよ」等自分以外の世界への理解と興味を深め、自分と置き換えながら自分にできる事は何だろうと考えて行動に移す姿が多く見られた。

発表を終えての子どもたちは達成感に溢れていて、「今度はこんなことしたい」「次はもっとこうしたい」と次への意欲に繋げることが出来ていた。

5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

子どもたちの言動が、保護者にも家庭での会話として現れ、子どもたちが自分たちで学び合う姿への喜びや、保護者自身も最後まで見守ったり、出来ると信じて見守る事の大切さを知ることが出来たと話している。

保育者としても、生活の小さな子供たちの言葉や興味関心の芽を聞き漏らさずまた、実現するための環境を子どもと共に作り上げる事で、子どもたちの可能性を最大限に伸ばし、見守る事、挑戦する事の大切さを学ぶことが出来た。

自分たちで決めたテーマに向かって何度も試行錯誤しながら作り上げ、できた時の喜びは大きく、また家族の皆に見てもらえたこと、ひとりで歩いて舞台上上がった事が子どもたちにとって、自分の世界をより大きな世界へと広げることができた時間となった。

活動の様子が分かる写真 2枚以上を貼付してください。

(HPなどで公開する可能性がありますので、公開可能なものを使用ください。)

